

シラホシオナガバチ

有明森林で昼食時になりまして、席についてザックから弁当を取り出していましたら、湯沢さんが「ムシ、ムシ」といって指さすので、「ドレドレ」と見ますと、なんとも凄い姿のハチでした。寄生バチの仲間だと判断しましたが、初めての出会いなので、その場で同定できる知識はありません。取り敢えずデジカメで撮影。2017年8月18日12時11分のことでした。



帰宅後図鑑「札幌の昆虫」をめくりますと、すぐに見つかりました。なにしろとてつもなく長い産卵管なので紛れることはありません。シラホシオナガバチでした。接写した画像をご覧ください。



8月もお盆を過ぎましたので、この虫も世代を引き継がせる役目を終えていたのでしょうかね、やれやれした感じで動きが緩慢なので接写を許していただけました。シラホシとは白い星の意味のようです。背中に白い点があるのがわかる映像が撮れました。

分類的にはヒメバチ科に括られています。この科のハチ達は他の虫の幼虫に卵を産み付けまして、宿主を中側から食べ尽くす、厭な生き方をするので好きになれません。こいつは木質を食べながらトンネルを掘ってゆくカミキリ虫の幼虫を専門に狙うことから、トンネルの奥にまで届くべく長い産卵管が必要になるわけであります。ネットでいろいろ調べましたが、情報が非常に少ないのです。分布にしても北海道～四国とあるのを見つけましたが、外国については分かりません。その意味で希少種であるとも言えます。産卵管は♀の持ち物で♂にはありません。産卵管を除く本体の大きさは18～24mmです。出現は6～8月のようです。

この長い産卵管はご覧のとおり細いものです。卵がその細い管を通るわけで、当然中空の管なのです。その管を操作するのはどんな仕掛けでなされるのか、狙った穴に差し込むメカニズムが解明されれば、とんでもない新技術の開発に結び付くような気がいたします。傘寿を目前にした身であれば、もはや研究する時間も体力もありませんが、若い方々のどなたかに解明していただきたいと念じる次第でありました。

